

ダンパーフレークの導入(3)

－CD 再生系－

1. 始めに

インフラノイズ社から、ターンテーブルアキュライザーTACU-1が発売され、その感想文を送るとダンパーフレークなる返礼品が送られてきました。前報(2)に引き続き、このものの応用を検討していきます。

2. ダンパーフレークの試聴方法

今回は、CD再生系とし、アナログ信号経路に適用してみたいと思います。

CD再生系としてはEMT981を選択します。

EMT981→TruPhase→BACU-2000→300B アンプ

上記はすべてバランス接続としており、その適用箇所は上記のXLR入力・出力端子で、適用に際して貼り付け作業のスペースファクターの良い箇所などとします。適用箇所は下記が候補になります。

EMT981 出力端子 TruPhase 入力端子

BACU-2000 入力端子 BACU-2000 出力端子

300B アンプ入力端子

音源は、演奏会で聴いてきたCDから下記を選択します。

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他

フランソワ＝フレデリック・ギィ (ピアノ)

harmonia mundi KKC-5976

モーツァルト他 ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452 他

アンサンブル・ディアーロギ

S&R AVCL-25005

バッハ他 あなたがそばにいたら他

森麻季 (ソプラノ) / 山岸茂人 (ピアノ)

NML WS001

Gustav Mahler Symphony No. 1 in D major

Fabio Luisi 指揮 Wiener Symphoniker

3. ダンパーフレークの試聴結果

まずは、ベートーヴェンのチェロソナタを再生しながら、ダンパーフレークを

EMT981 出力端子、TruPhase 入力端子、BACU-2000 出力端子に順次貼り替えながら聴いていきます。



EMT981 出力端子



TruPhase 入力端子



BACU-2000 出力端子

それぞれの効果は、大同小異で、前報(1)のアナログ再生系や前報(2)の LAN 端子ほどではありません。信号レベルが高いことと、バランス XLR 端子はしっかりロックされているからだと思われます。以上の3ヶ所では、響きのダイナミズムが比較的大きいと感じられた BACU-2000 出力端子を選択し、ある程度結果が分かったので、他の2ヶ所は見送ります。BACU-2000 出力端子は 300B 経由の再生すべてに効果がおよぶメリットがあります。

さらに信号系ではありませんが、EMT981 にクロック信号を送っている GPS-777 の 44.1MHz クロック信号の BNC 出力端子に貼ってみます。ここへの適用は EMT981 以外にも効果がおよぶメリットがあります。



クロック端子への適用を追加しますと、ベートーヴェンのチェロソナタの弱音部の音像がより明瞭になり、全体として、バランスのとれた、よりくっきりとした音になってきます。

この段階で、残りの CD を聴いて行きました。

アンサンブル・ディアーロギは、個々の楽器の質感が良く出ており、特にフォルテピアノやナチュラルホルンは演奏会の雰囲気再現してくれています。

森麻季は、演奏会で聴いたとおりの透明感のあるソプラノで伸びのある歌唱力が聴けます。

ウイーン交響楽団のマーラー1番は、弱音の美しさからフォルテッシモの爆発まで再生が難しいソースですが、演奏会の印象をかなりの程度再現してくれています。

4. まとめ

EMT981 から 300B アンプまでのバランス伝送の XRL 入力・出力端子に適用してみましたが、アナログ再生系やストリーミング再生における LAN 端子ほどの効果は認められませんでした。GPS-777 からのクロック出力 BNC 端子にも適用することにより、演奏会の印象を再現できるようになりました。

以上